



(社)日本建築家協会 沖縄支部

福田 俊次 韓国 建

遊牧民の知恵

どろろという訳かペルシヤ



(イラン)の砂漠で、1年  
半生活した事があります。  
天然ガスのプ  
ラント建設現  
場で監理業務  
をしていまし  
た。

昼間は45  
℃。汗は流れ  
てこない、た  
だただ喉がか  
わく、車のボ  
ンネットが目  
玉焼きが出来  
る。出来るだ  
け身体は布で  
覆い、露出部  
分を最小限に  
する。風が吹  
くと砂嵐にな  
り、パンツの  
中まで砂が入  
り込んでくる。

# ゼロエミッション住宅

夜は20℃以  
下になり、布  
団なしでは寝  
られない。  
そんなある  
日、仲良くなっ  
たイラン人の  
運転手と近く  
をドライブす  
る事がありま  
した。30分も  
走ると砂漠の  
中に突然オア  
シスらしき、  
ヤシの木や

ちょっとした  
緑が見えてき  
ました。遠く  
からは全く識  
別出来なかつ  
たのですが、  
近づくとちょっ  
とした集落で  
した。まるで  
地面が盛り上  
がったような  
家の集まりで  
す。壁・屋根  
とも土で塗り  
込められてい  
る為、全く砂  
漠色です。建

設中の住宅があったので、  
少し拝見させてもらって、  
周囲の土から造った日干  
しレンガを上手に積み上  
げていて、壁は最小限の  
明り採り窓がついていま  
した。屋根は木の棒を下  
地にし、レンガをアーチ  
状に敷きつめており、そ  
の上にはやはり周囲の土を  
粘土状にし、投げつけて  
は手でこすりつけていま  
した。

内部の床は土の上に直  
接ペルシヤ絨毯を敷き、  
壁は土そのままのものや、  
ペンキらしきものが塗ら  
れているだけで、家具は  
ほとんどありませんでし  
た。部屋の真ん中に裸電  
球が1つぶら下がってい



て、家の中は外の砂漠と  
は別世界で、とても涼し  
い快適空間でした。

砂漠にも11月から1月  
までの雨期があります。  
雨期前と雨期明けは家族  
総出で住宅の修繕をやる  
光景が見られます。

素朴な材料で造られた  
建物にも、それぞれのア  
イデンティティーがあり  
ました。そして集落全体  
に統一感があり、とても  
美しく感じました。人が  
住まなくなり、手入れが  
なくなるとその家は地面  
に戻ります。住まい方の  
原点を見せられ、彼らの  
知恵に感心させられた一  
時でした。(※掲載写真  
は著者提供)